
糖尿病透析患者の栄養状態は歯周病有病率ではなく残存歯数に関連する

医療法人衆和会 長崎腎病院 長崎腎クリニック

○川口利江 白井美千代 吉野秀明 林田征俊 矢野利幸 一ノ瀬 浩 佐々木 修 澤瀬健次 橋口純一郎
原田孝司 船越 哲

【目的】

維持透析患者の口腔内の状況を調査し、糖尿病透析患者と非糖尿病透析患者における特性を検討する。

【対象・方法】

当院外来通院患者 249 名に対し日本歯周病学会の「歯周病セルフチェックアンケート」を実施し、糖尿病の有無による口腔内の状況、また栄養状態等の因子を比較する。

【結果】

糖尿病：非糖尿病透析患者数はそれぞれ 83:166 名（平均年齢 64.3:73.9 歳）で、糖尿病において有意に若かった。これら 2 群において歯周病有病率に有意差はなかったが（26.5:34.9 %）、糖尿病透析患者において有意に平均残存歯数が少なく（14.9:21.7 本）、平均 GNRI は低かった（93.4:85.7）。

【考案】

糖尿病性腎症患者においては、有意に残存歯数が少なく、栄養状態が不良であり、過去と同様の報告あった。糖尿病群・非糖尿病群で歯周病有病率に差はなく、糖尿病患者においては栄養状態が、原因であれ結果であれ歯周病から歯牙欠損に至る加速因子となっている可能性がある。